



## アクセサリで培ったノウハウが 随所に活かされた注目モデル

ADLは電源アイテムや各種ケーブル、アクセサリで知られるフルテックのコンポーネントブランド。その製品ラインアップは、フルテックのノウハウが盛り込まれたオリジナリティ溢れるものばかりだ。

フォノイコライザーアンプをUSB DACと合体させた本機は、オーディオの楽しみを拡大してくれるアイテムと言えるだろう。

Text by 岩井 喬 Takashi Inoue  
Photo by 田代法生



## ADL STRATOS

フォノイコライザーアンプ/ADコンバーター/DAコンバーター  
¥139,800(税別)

### Specifications

●最大対応サンプリングレート(USB):DAコンバーター→384kHz/32bit (PCM)、11.2MHz/1bit (DSD)、ADコンバーター→192kHz/24bit ●周波数特性:20Hz~20kHz(±0.5dB) ●S/N:>90dB(ライン出力) ●アナログ出力:5.0Vrms ●ヘッドフォン出力:バランス→400mW(12Ω)、2200mW(56Ω)、350mW(600Ω)、アンバランス→1100mW(12Ω)、820mW(56Ω)、100mW(600Ω) ●入力端子:RCA同軸デジタル×1、光TOS×1、USB(Bタイプ)×1、RCA×1、PHONO(MM/MC)×1 ●出力端子:RCA×1、XLR×1、光TOS×1 USB(Bタイプ)×1、6.3mmステレオ標準×1、4Pin XLR×1 ●サイズ:215W×64H×180Dmm ●質量:約1.33kg ●取り扱い:フルテック(株)



デジタル入力はRCA同軸、光TOS、USB(Bタイプ)各1系統。  
アナログ入力はRCAのラインとフォノを各1系統装備している

フォノEQ+DACにいち早く取り組んだブランド  
フォノアンプつきADコンバーターというジャンルにいち早く取り組んでいるブランドのひとつがADLである。USB DAC機能も持つGT40を皮切りに、192kHz/24bit入力対応を果たしたGT40a、そしてGT40aをより強化した最新モデルSTRATOSへと進化を遂げている。GT40aは再生・録音とも192kHz/24bit対応で、フォノアンプもMM/MC両方に対応。ケーブル特性はRIIAのみでAD/DAチップはシリラスロジックCS4270、フォノ用オペアンプに新日本無線製NJM2068を積む。入力ゲインは3段階(0、+6、+12dB)切り換えである。一方、STRATOSについては録音・再生いずれにおいても現段階のトレンドを網羅したような仕様を持つオールインワン・オーディオインターフェイスといえる仕様を持つ。フォノアンプ部はGT40aに近く、オペアンプはNJM2068DDを積み、MM/MC両方に対応する点も同じだ。入力ゲインについては3段階であるが、0dBを挟んだ±6dBの間を切り換える作りとなる。ADCチップはシリラスロジックCS53

本機を活用した録音までの流れ



アナログプレーヤーを本機に接続したら、リアパネルのスイッチで使用カートリッジに合わせてMMかMCを選択する。昇圧トランスを使用する場合はMMを選択する



録音時はレクターを「Phon」ポジションに合わせる。録音にはフリーの波形編集ソフト Audacityの使用が推奨されている

GT40α  
¥55,200(税別)

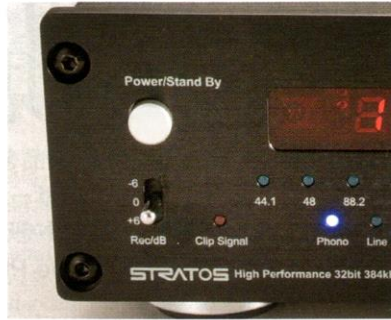


フォノイコライザー内蔵のUSB DACとして注目を集めたGT40の後継機として登場したモデル。USB音声入力仕様を最大192kHz/24bitまでの対応にアップグレードしている。ヘッドフォンアンプも内蔵。

Specifications

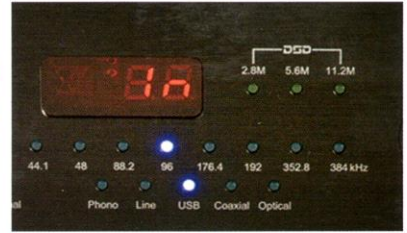
- サンプリング周波数(オーディオアプリケーションソフトに依存):USB入力時再生24bit/192kHz(Max)録音24bit/192kHz(Max)、16/24bit 44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz対応
- 周波数特性:20Hz~20kHz(±0.5dB)
- S/N:-90dB(A-wtd)/ライン出力
- サイズ:150W×57H×111Dmm
- 質量:約650g

録音のためのポイント



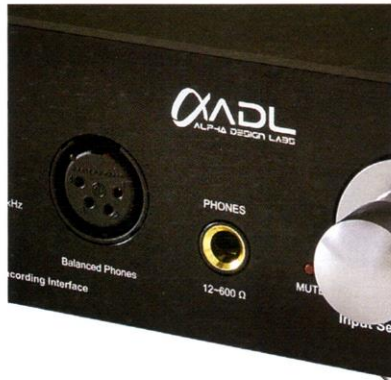
-6、0、+6dBの3段階の入力ゲイン切り換えを装備しているため、入力信号に合わせて選択する

録音したデータは本機のUSB DAC機能を用いてそのまま再生することができる



ハードとしてのポイント

STRATOSはアナログ出力にRCAとXLRを装備するが、それぞれフルテック製のソケット「FP-900(G)」(写真上)、「FT-783M(G)」(写真下)が採用され、ロスのない純度の高い再生を実現している。これはコネクター製品への極めて高いノウハウを持つ、フルテックが開発するADLブランド製品ならではの大きな魅力であると言える



ヘッドフォン出力は6.3mmステレオ標準アンバランス端子と4pinXLRバランス端子を備えており、2台のヘッドフォンを同時に駆動することができる。TI製TPA6120A2を採用しており、ヘッドフォンアンプとしての評価も高い

まず、GT40αを介しての直接試聴では全体的にソリッドなサウンドとなり、低域もアタック感を中心としたスマートな音像だ。高域のハリは爽やかでオーケストラの旋律もほぐれ良い。ロックはやや大味でリズム隊は広がる傾向だ。STRATOSでの直接試聴もソリッドな描写性を継承しているが、より密度感が増し質感も滑

ソリッドな描写性でスマートな音像再現

40を積んでおり、最高192kHz/24bit PCMまでの録音に対応。ちなみに再生側はESS製DAC、ESS9018K2Mを採用し、最高384kHz/32bit PCM&11.2MHz DSDまで対応できる。ヘッドフォン出力はXLR・4ピン方式のバランス駆動も備えており、アンプデバイスにはTI製TPA6120A2をアンプバランス駆動分も含め3基搭載。ヘッドフォンの駆動能力の高さも申し分ない。また音量調節部には新日本無線製電子ボリュームMUSES72320を採用する。ちなみにGT40α、STRATOSとも入力レベルがクリップすると前面パネルの赤LEDが灯るレベル監視機能を持っているので、リッピングの際の入力レベル調整の参考になるだろう。

らかに描かれるようになる。伸び良く爽やかなオーケストラの旋律やローエンドの豊かな響きも鮮明に伝え、ロックもエナジー溢れるフォークス良いサウンドを聴かせてくれた。ウッドベースの弾力良い胴鳴りは艶やかで耳当たりも良い。続いてファイル化したものを聴いてみたが、GT40αは高域にかけての粒立ちは細やかに際立ち、ピアノも硬質なタッチで明瞭に響く。中低域の分解能は中庸で、音場もごんまりとしている。ロックのデイストーションギターはエッジが鋭く、全体的にスマートな描写だ。STRATOSではレンジが広く、音像の分離度も高い。オーケストラやピアノの階調も細やかで、潤い良く華やいだ余韻も楽しめる。低域方向の密度感も十分保たれ、ウッドベースの躍動感もハリ良く艶やかだ。ロックはソリッドで鮮明な高域の切り込みも感じるが、音像そのものは厚みもあり、元気でバランスが良い。アナログリッピングを含めネットオーディオ初心者にはGT40αを、さまざまなハイレゾ音源と共にアナログ・リッピングを楽しむみたいリスナーにはSTRATOSをお薦めしたい。